

新学科長になって

英語学科長 笠島 準一

前回のSELDAのニュースレターではBarry先生が退職されるに当たり、お別れのメッセージを寄せられていました。Barry先生は私が英語学科に入学した時のクラス担任の先生で、上智に入って、最初の英語の先生だったのです。昭和44年、学園紛争中で、大学側のロックアウトが解除された年のことでした。

その時の学生が教員になり、今回学科の世話役になり、ご挨拶をとということになりました。そこで、私にとっての英語学科の印象を一言お話しさせていただきます。

これは私が英語学科の教員になって間もない、最も若年の教員のときのことで、教員全員で一泊の研修会に行き、夕食を済ませ、また話し合いを続けるためにそろそろ食堂を出ようとしたときのことで、セルフサービスの食堂なので自分の後片付けをするのは当然なのですが、まさかと目を疑うことが起こったのです。返却カウンターにあった台拭きで、当時の学科長がテーブルを拭き始めたのです。

それまでの私の経験では、別のところで日本人の、封建的・縦割的な集団を見てきていました。私のような若輩はお茶を入れるのが当然と思い込み、入れてもらってもふんぞり返っている高年齢集団。自分で飲んだ湯飲みなんて洗うことを想像することもできない人たちです。テーブル拭きなど絶対にしない人たちです。(と言う私も家では…)

ということで、この英語学科には居心地のよい空気が流れていることを感じました。このエピソードは一端にしか過ぎませんが、英語学科は、悪しき封建的な伝統がないところと感じています。実際、学科の教授会では自由に意見が交換され、個人の自由が平等に尊重されています。

教員になって、また別のことも知りました。英語学科の教員は本当に学生のことを考えていることでした。教授会の中でも、普段の雑談の中でも、学生のこと、授業のことが話題になります。長年勤めて今では当然のように慣れてしまいましたが、勤めはじめの頃は、このような先生方に指導してもらっていたのだと、よく感じたものでした。

英語学科にも改善すべき点はまだまだありますが、これからは英語学科の良い点を引き継ぎたく思っています。卒業生、在校生の皆さんに「英語学科に行ってよかった、来てよかった」と思われる学科であり続けるよう、努めるつもりでいますので、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

★総会のお知らせ★

1998年度総会を今年もオール・ソフィアンズデーに合わせて、5月31日に開催します。今回は新しい会長を選出する予定です。総会終了後、引き続き親睦パーティーとなります。会費は無料。是非皆様お誘い合わせの上お越し下さい。久しぶりの母校で、楽しいひとときを過ごしましょう。

【1998年度 SELDAA 総会および懇親会】

日時：1998年5月31日(日曜日) 12:00～14:00

場所：上智大学1号館101教室(正門を入ってすぐ)

総会の議題(予定)：1. 1997年度活動報告

2. 1997年度決算報告・1998年度予算

3. 新会長選出

4. その他

「先見性のなさにつくづくあきれて」

江戸川大学社会学部講師

小笠原祐子 (旧姓 古山) (昭和58年卒)



15年前に上智を卒業したときは、もう大学に縁はないだろうと思っていたのに、大学講師となった今、自身の先見性のなさにつくづくあきれています。卒業後、経営コンサルティングの会社に就職したものの、その仕事にどうしてもなじめなくて、アメリカの大学院へ進学を決意しました。しかし、問題は推薦状です。1通は会社の上司に、もう1通は幸いにも Denny Petite 先生に書いていただけることになりましたが、推薦状は全部で3通必要でした。せっぱ詰まった私は、なりふり構わず松尾式之先生の研究室に押し掛け、窮状を訴えました。松尾先生の授業では、のちに研究の道に進むことになろうとは夢にも思わず、ただ教室の後ろでしんとしているだけの学生でしたので、先生が私のことを覚えていらっしゃるのことは当然のことでした。しかし、先生は注意深く私の訴えを聞いて下さり、推薦状を書いて下さいました。何年かたって、当時のお礼を申し上げたら、松尾先生はちょっと笑って、「Why?ではなく、Why not?の精神ですよ」とおっしゃいました。

どうにか入学を果たしたシカゴ大学大学院ですが、MBA取得のため一緒に留学した夫の滞在年数が限られていたため、博士課程修了後、籍はシカゴ大に残したまま、ミネアポリス、東京、アムステルダム、ヘレフォード(イギリス)と、夫の勤務地が変わるたびに、調査資料を抱えて私も引っ越しを繰り返しました。アムステルダムでは娘が生まれ、遅々としてはかどらない研究でした。どうにか論文らしきものにまとめ、Ph.D.取得へ向けての最後の口頭試問のためにシカゴへ飛んだのは、娘が1歳半のときでした。

今春、学位論文の材料をもとに、英文と日本語で一冊ずつ本を上梓しました。企業社会に生きる男女のパワーゲームとその帰結についての考察です。この聞き取り調査には、英語学科の卒業生にもご協力いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。「どうもありがとう！おかげさまで、本になりました。」

(Ogasawara, Yuko, *Office Ladies and Salaried Men: Power, Gender and Work in Japanese Companies*, University of California Press.

【OLたちの〈レジスタンス〉】 小笠原祐子著 中公新書)

「Sophia_BTF メーリングリストへのご招待」

駿台予備学校講師 斎藤 資晴 (昭和57年卒)

斎藤 (も) @自宅です。

>>Date:Wed, 25 Mar 1998 00:15:19 +0900
>>Subject:SELDAA会報の原稿の件
>>英語学科の東郷です。
>>その後如何お過ごしですか。
>>先日お願いいたしましたSELDAA会報の原稿ですが、
>>まだ戴いていないようなのです。いかがな具合でしょうか。

す、すみません、忘れてました。m(____)m



英語学科卒業生の皆さん、お元気でしょうか？ 82年卒の斎藤資晴です。初めて紀尾井町の地を踏んで以来早20年。まさに「光陰矢の如し」という感じです。

年ですかね。数年前から頗る「○○はどうしてるかな～」「××は元気かな～」と昔を懐かしむことが多くなりました。しかし、現実には、皆仕事も忙しいし、住んでいるところも違う。なかなか会うことなどできません。「何とかならんかな？」と思っていたある日、後輩からもらった一通の電子メールがヒントとなり、上智OB・OG用の「メーリングリスト」、「Sophia_BTF ML」を始めることを思いつきました（メーリングリストというのは電子メールを使った「会議室」みたいなもので、あるアドレスにメールを出すと、それが参加者全員に届くようになっています）。当初のメンバーは4人でしたが、徐々に増え、現在は約60人、毎日平均30通ほどのメールが飛び交っています。

面白いですよ！（^^）同じ上智のOB・OGと言っても、年代の違う人と話ができたり、自分とは全く違う仕事をしている人の話を聞けたり、ニューヨークやロスからレポートが入ったり、とにかくいろいろな話がメールボックスに届きます。卒業後の変身ぶりにも感心させられます。在学中は「野球が超ヘタクソな子」というイメージしかなかった後輩が、知らないうちに「日本を代表する金のディーラー」になっていたり、いつの間にか「弁護士」や「税理士」になっている人もいて、メールを読んでいると「20年前」と「現在」が頭の中で心地よく交錯します。

興味のある方は <http://www.saitoh.net/btf/> を見てください。最近のメールのやり取りをご覧ください（ほとんど「雑談」ですが…。^^;;）。参加希望の方は motoharu@saitoh.net まで御連絡ください。subscribeの方法をお知らせします（特に○○や××に該当すると思う方の連絡をお待ちしております。ただし、該当者は全員「女性」です。（。。）＼バキッ☆）。

もちろん、Nifty Serve 等のパソコン通信からも参加できます。

皆さんと、メールメーリングでお会いできることを楽しみにしております！
では、また。

斎藤 資晴 (Motoharu Saitoh)

駿台予備学校 英語科専任講師

E-Mail: motoharu@saitoh.net

<http://www.saitoh.net/>

卒業生短信

3月末までに事務局に届いたお便りを掲載いたします。
(本文中では敬称を略しております。ご了承ください。)

◆雪の降る町で40代の大半を費やした博士論文があと少しで完成するところです。ここアイオワ大学ではIntroduction to Women's Studiesを教え、来年の春はWriting Labを、夏にはGeneral Education In Literatureを担当しながら、次の行き先を捜す予定です。アメリカの大学は学生さんが活発です。日本で教えるよりはるかに楽しく充実しています。

清水和子(昭和45年卒)

◆卒業後3回ほど転職し、育児の為に退職。契約社員とし社会復帰、2人目出産でまた退職。パート職で仕事再開後、縁あってまた同じ会社で契約社員として働いています。復帰(再入社)したとき、同じ部に英語学科の後輩がいてびっくり。さらにもう一人新入社員として入社してきて、またびっくりです。世界に(!)二、三千人しかいない後輩のうち2人と毎日同じ部屋で働いている偶然に驚きつつ、とてもうれしくもあります。後輩のお二人は正社員でとても優秀です。年長者の私はいいかげんで、こんな先輩でゴメンネといつも思っています。会報で同窓生の皆様のご活躍を読んで、私も家庭と会社以外に何か始めたいと感じています。今回通信を送って宣言することにより、自分をやらねばならない状況に追い込むこともねらいです。あせらず「何か」を捜していきます。

上野紀子(旧姓 道田)(昭和58年卒)

◆卒業して早20年。厄年をやっと終え、自己をみつめなおす今日この頃です。20年の会社生活の半分を米国、そして今イギリスと出向生活暮らし。21世紀を迎えるまでに日本へ帰る予定ですが、どうなることやら。愛娘はアメリカで生まれ、現在ロンドン日本人学校の3年生。娘が成人式を迎える時、日本は、米国は、そしてEUは、本当の意味でグローバルな社会を構築していく、いかなければならない。次世代の為に今、私共がやらなければならないことは何なのでしょう。日本を外から見ると、社会活力の低下を危惧します。欧州における多様性をふまえた上での政治・経済統合の行方から学ぶことは多くあります。今までの社会での経験・実践を一度整理し直し、学び直すべく、母校の門をくぐる日が来らんことを。

廣瀬一郎(昭和53年卒)

◆1996年11月より転勤でカリフォルニア州サンディエゴにきています。三洋電機(株)の半導体関連の販売会社サンヨーセミコンダクターに勤務し、営業を担当しています。オフィスも住居もメキシコシティワナに近くヘビヤコヨーテ、野うさぎなどにも時々出くわします。40才台になり初めての駐在ですが、家族共現地の生活にとけこんで楽しく暮らしています。

沖中暁(昭和54年卒)

◆月日の経過は早いもの、卒業して早39年。現在はパーキンソン病との二人三脚、闘病生活を続けながら、メイクアップアーティスト学院、美容学校の講師として精一杯頑張っています。若い生徒を相手にしていると心身ともに力が湧いてきます。

8年前、セールスマンやサービス業の人たちの初歩的なテキストがわりとして活用してもらうため『ボディ・コミュニケーション<動作でつくるよい人間関係>』を勁草書房から上梓しました。

この後、趣味として蒐集している“コースター”の写真集でも出版できたらと楽しみに、“一步一步が遠きに至る”の気持ちで余生を味わいながら生活しています。

嵯峨山雄也(昭和34年卒)

◆現在、学生番号81の英語学科の仲間を中心に、MAILING LISTを運営しております。何年も話をしなかった友人と毎日ベースで話をするようになり、e-mailの便利さを感じています。数年前に本を出版しました。『ゴールド・ディーリングのすべて』神保出版会です。興味のある方、買ってください!

E-mail: ikemizu@cup.com

池水雄一(昭和61年卒)

◆1979年にユネスコに勤務し、その後1990年にジュネーブの国際教育局に異動、昨年からはハンブルグにあるユネスコ教育研究所の主席研究員として勤務しています。上智大英語学科を卒業したのが昭和43年、フランス(パリ)・スイス(ジュネーブ)では英仏が仕事上の使用言語でした。ドイツに移りドイツ語の勉強もしなくてはと頑張っています。年を意識しないようにして、スポーツ(ジム・スキー・ジョギング)もかかさずやっています。

大迫俊夫(昭和43年卒)

◆Dear Alumni;

FOR-GET-ME-NOT "ENGLISH" (TOKUNI IMIWA ARIMASEN)

I have been reading news every time with a great interest. I found that all alumni news were written in Japanese. I would like to see some news written in English as we all studied English in school. Let us encourage our dear alumni write news in English. For this job, we may have to ask a great job for SELDAA staff.

I graduate Sophia in 1960. I was not well prepared student at that time. That is why I was trying to keep learning English after school.

I got a job at a trading company but I had few chance to use English when it comes to speaking and writing English for almost 10 years at that time. It may be very difficult to believe for you, young people. As a system, the company had correspondence Dept. and they were writing all English letters and we had no chance to write English letters and access to buyers who visited our company as we are too young to deal with buyers and we had so many higher-ups in organization.

However, chances were coming without notices.

- 1) The first chance came to me as the company sent me to USA as the first employee as I knew product line and also they say that I can handle English in 1967.
- 2) The second chance came to me when I was transferred to a subsidiary in 1970. I had to do everything by myself as there was no English staff in new organization.
- 3) The third chance came to me when we made a new company (KYODO International CO., LTD. We just finished 17 terms 9/30/97) with foreign investment in our company in 1981.
- 4) The fourth chance came to me when we were forced to go to Korea, Taiwan, Hong Kong, Thailand and China, etc. due to higher Yen as we were mostly exporting Japanese products to overseas. It was too difficult to learn their languages in a short time. They speak English and we could communicate well and made a success.

I remember that my English capability increased greatly (as my standard) since I really started to write English letters by myself. Then I really learned what you call "THINK IN ENGLISH."

Dear Friends, let us write English news in SELDAA!

Yoshimi Saito, a graduate in 1960

齋藤慶三 (昭和35年卒)

◆69-50, 51, 52の皆さんへ、

5月31日ソフィアのつどいのお誘い

大学を卒業して早25年が過ぎました。この期にあたって四半世紀前の青春時代を語らいあいませんか。御多忙中とは思いますが、万障繰り合わせの上、御参集下さることを期待しています。別送ソフィアだよりに当日の総会など含めて掲載されています。

尚、SELDAAの総会、パーティーにも是非御出席下さい。

蔵田實・上田恭・池沢なるみ (昭和48年卒)



この卒業生短信のコーナーでは、
皆様からの投稿を受け付けております。

同封の葉書に、近況や最近感じたこと、さらには学生時代の思い出など何でも結構ですので、どしどしお寄せください。(同封の葉書でなくても構いません。また英文も大歓迎。)

よろしくお願いいたします。

SELDAA 常任委員名簿

SELDAA 常任委員 (平成10年4月現在)

- 名誉会長 / 吉田 研作 (昭和47年卒)
- 会 長 / 座間由美子 (昭和43年卒)
- 副会長・事務局長 / 東郷公德 (昭和62年卒)
- 副 会 長 / 池沢なるみ (昭和48年卒)
- 会 計 / 竹内るり子 (昭和48年卒)
土肥百合子 (昭和48年卒)
- 会 報 / 佐藤誠一郎 (昭和53年卒)
大日方聖信 (昭和62年卒)
- 女性セミナー / 安西 徳子 (昭和49年卒)
- 常任委員 / 鈴木達也 (昭和38年卒)
井波明夫 (昭和39年卒)
小林 修 (昭和39年卒)
関 浩一 (昭和39年卒)
石川雅弥 (昭和40年卒)
齋藤敬子 (昭和48年卒)
内藤恭子 (昭和55年卒)
増田 光 (昭和59年卒)
- 監 査 / 菊谷秀子 (昭和43年卒)
井坂由美子 (昭和47年卒)

SELDAA 女性セミナー

女性セミナーでは、毎月一回学内外から講師をお招きして、それぞれご専門の分野の講演をしていただいております。今回は、昨年9月から今年3月までに開催されたセミナーの概要をご報告いたします。

9月24日

Prof. Saadollah Chaussy (上智大学比較文化学部教授)

「Central Asia since independence and its geopolitical importance」

今中央アジアが世界の注目を集めています。その歴史的・地理的条件から、古くはペルシア、最近ではソ連邦まで多様な文化と宗教が混在している面白さに加えて、天然ガスや石油など天然資源の宝庫だからです。独立から5年たった今も、様々な問題を抱えている故郷への想いと、21世紀への躍進の期待をこめてのGhaussy教授のお話でした。

10月22日

Prof. John Clammer (上智大学比較文化学部教授)

「東南アジアの文学と社会」

文学の中でも特に自伝に最もよくその時代の社会が反映されているとのこと。日本の伝記の中では、福沢諭吉の「福翁自伝」に最も強い印象を受けられたそうです。現在日本の社会を反映するものとしては、吉本ばななの小説、映画「うなぎ」、そして、漫画を挙げられました。

11月26日

村井吉敬 教授 (上智大学アジア文化研究所)

「日本人の食と地球環境」

12月10日

吉田研作 教授 (前英語学科長)

「異文化コミュニケーションと外国語教育」

外国語教育において最も重要なことはcommunicationであり、そのためにはself-expressionが非常に大切であるとのこと。インターネットの発達により、世界はworld small villageになりつつありますが、実際には様々な言語、文化的背景を持った人々が住んでいます。その中であって、別々の文化的背景を持った人々が、しっかりと自分の意見や自らの文化的背景を伝え合うという、個人的相互理解が異文化コミュニケーションを可能にし、それができてこそ21世紀はすばらしいものになる、と結ばれました。

1月28日

Fr. William Currie (上智大学比較文化学部長)

「The History of the Broadway Musical」

“The King and I”, “The Sound of Music”, “My Fair Lady” などの有名なブロードウェイのミュージカルの中から、懐かしい歌の数々をカーリー先生の素敵なピアノと歌声で次々と聴かせていただきました。

2月25日

ビデオ鑑賞「マザー・テレサとその世界」

3月11日

井上久美氏 (英語学科助教授)

「広告から見たアメリカ文化」

コミュニケーションの手段である広告は、国民性を反映しています。「アメリカの広告はポジティブなイメージを出すものがほとんどで、イギリスの広告は70%くらいがネガティブで暗いイメージのものが多く、時にはシニカルである。」広告の例をスライドで見せていただきつつ、テンポの良い先生の語り口で、興味深いお話を伺うことができました。

☆女性セミナー第2回懇親会開かれる！

12月10日の吉田先生の講演のあと、吉田先生を囲んで2回目の懇親会を行いました。現在の英語学科についての質問なども飛び出し、和やかな中にも有意義なひとときでした。



【今後の予定】10:30～12:00 於: かつらぎ館地下1階ホール

4月22日(水) Prof. Saadollah Ghaussy (上智大学比較文化学部教授)
「The Actual Asian Financial Crisis (and Japan)」

5月27日(水) Fr. Donal Doyle (英語学科教授)
「Irish Folklore」

6月24日(水) Prof. Denny Petite (英語学科教授)
「Crime and Delinquency in Modern Society:
An Examination of its Origins, Explanation and
Prevention」

※6月24日に限り、時間が11:00～12:30に変更になります。

7月8日(水) 岸朝子氏 (料理評論家、料理の鉄人に出演中)
「おいしく食べて健康管理」

4月より平成10年度が始まりますので、年会費をお納めください。

3,000円/年、500円/1回のみ、
英語学科以外は5,000円/年

連絡先

【世話人】

日岡久美子(49年卒) / 03-3775-8988

渡辺まかや(49年卒) / 045-361-4221

【会計】

三好比呂子(49年卒) / 03-3348-0285

★新奨学基金設立のお知らせと寄付のお願い(再掲)

英語学科は現在「上智大学英語学科先哲奨学金」という名称で「学業成績が良好で、経済的に困窮している上智大学学部学生を対象に、原則として学資金の一部」を給付する奨学金制度を運用しています。本年度も3名の学生にそれぞれ18万円ずつ、合計54万円が支給されました。この奨学金制度は「英語学科旧野口奨学基金全額の寄付を含む上智大学先哲奨学基金の運用利息」を源泉としています。この奨学金制度のさらなる充実をはかるとともに、野口先生以外の先哲であられる今は亡き先生方の名を記念するために、新たに「故フォーブス神父・故メイスン神父・故ハンコック神父記念奨学基金」がこのたび設立されました。この新奨学基金は資金が一定額に達した後に旧野口奨学基金と並んで上智大学英語学科先哲奨学基金の一部として活用されることとなります。つきましては、この新基金設立の趣旨にご賛同戴けますならば、是非ご寄付をお寄せ下さい。ひとりでも多くの方々のご協力をお待ち致しております。寄付金の振込先は下記の通りです。

郵便振替 口座番号: 00170-6-412237

口座名称: 上智大学英語学科先哲奨学基金

英語学科長 笠島準一

■異動通知にご協力ください

ご住所、勤務先などに変更があった方、名簿の誤りを訂正される方、お名前の正しい読み方を知らせてくださる方は、英語学科同窓会事務局またはソフィア会までお知らせください。また、住所不明の方が多数いらっしゃいます。消息をご存知の方、情報をお寄せください。

■SELDAAより、募集とお知らせ

◆SELDAAでは、皆様より、この会報に載せる記事を募集しています。近況や最近感じたことなど、なんでも結構です。原稿に写真を添えて、あるいは、同封の葉書にご記入の上、お送りください。

◆この同窓会の常任委員として手伝ってくださる方を募集しております。ボランティアで私達と一緒に会を盛り上げてくださる方、ご連絡お待ちしております。

上記に関するご応募・お問い合わせは、お気軽にどうぞ。

連絡先: 英語学科事務室 東郷公徳まで TEL.03-3238-3719 FAX.03-3238-3910
e-mail:t-togo@sophia.ac.jp

■会費納入のお知らせ

本会の諸活動は、卒業生の皆様からの会費の納入によって賄われています。同窓会活動のより一層の充実と活性化を図るために、ぜひ会費をお支払い下さいますようお願い申し上げます。

会費の支払い方法には、毎年会費を支払う「一般会員」と、一括払いの「終身会員」の2通りがあります。初めて会費をお支払いになる際には入会金もあわせてお支払い願います。金額は下記の通りです。同封の振替用紙にて最寄りの郵便局または銀行よりお支払いください。その際、ソフィア会会員番号を必ずご記入ください。

入会金 : 1,000円

一般会員 : 年会費 2,000円 (できれば3年分まとめて)

終身会員 : 一括払い 20,000円

《あなたの会費納入状況》

封筒の宛名ラベルの右上をご覧ください。

◆「S」のスタンプが押してあるのは、「終身会員」であることを示しています。

◆「未」のスタンプが押してあるのは、今年度の会費が未納になっていることを示します。

5,000人を超える同窓会会員の会費納入状況のチェックには多大な手間と時間がかかります。チェックの時期と納入の時期が重なったなどのために行き違いがあった場合は何卒ご容赦ください。